

會 報

第 3 号



滋賀県老人大学校同窓會

出 給 心 意

滋賀県議会議員の横断誌会 (59/924)

報 會

第 3 号

目

方

知事 武村正義学校長

「滋賀新聞」印刷部発行 滋賀県新聞社 印刷部第一式

滋賀県老人大学校同窓會

昭 59・5・16 発行

滋賀県商工労働会館

目次

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 役員 | 会計 | 沿革 | 会則 | 地区別会員数 | 会員名簿 | 会員の動静 | 思い出 |
| | | | | | | | |
| 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 23 | 5 | 1 |

(表紙絵・前県教委学校教育課参事 川原林徳一先生)

思い出

四期生議員の模擬議会 (S58.9.24)

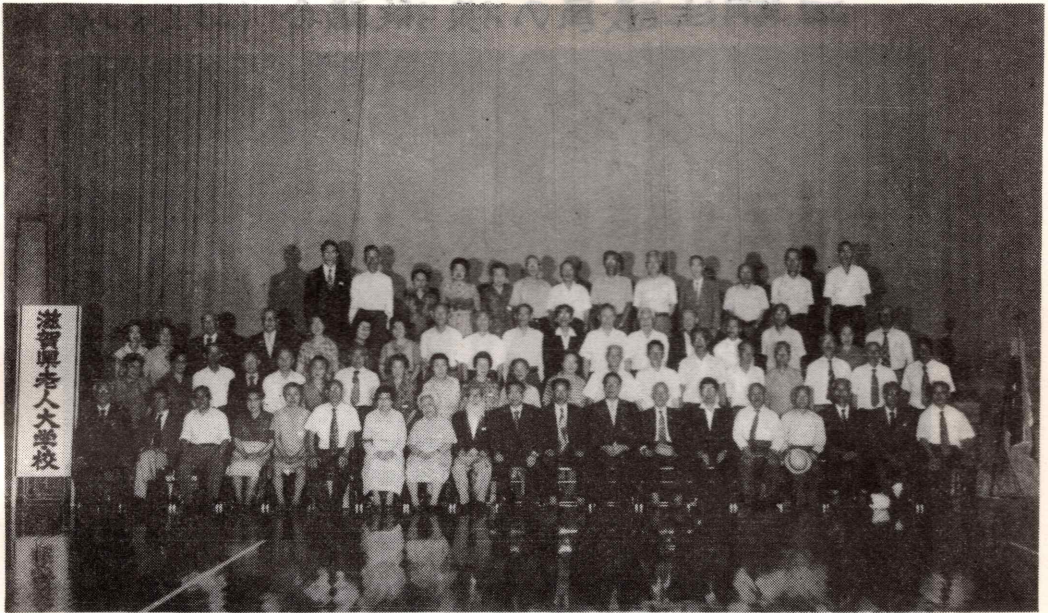


知事 武村正義 学校長



議場：県商工労働会館

同期の仲間



昭和 53 年 9 月 29 日 一期生入学式 於 近江八幡市農協会館

委員 学務 五 林 五 事務



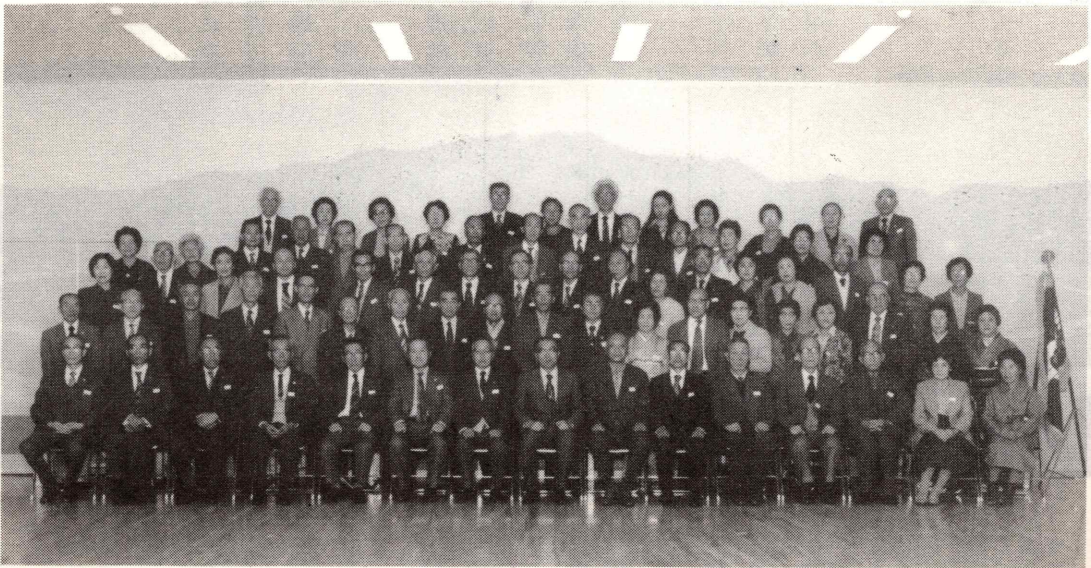
昭和 54 年 10 月 18 日 入学二期生の研修 於 岡山県閉谷学校

員 名 簿



昭和 55 年 10 月 30 日 三期生入学式 於 草津市社会福祉センター

静

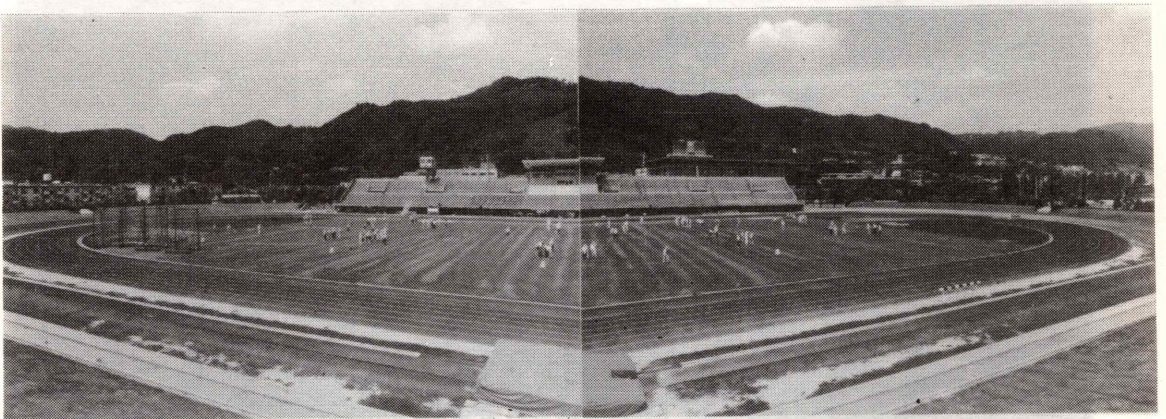


昭和 56 年 10 月 29 日 四期生入学式 於 県厚生会館

新 合 員



昭和57年10月14日 五期生入学式 於県厚生会館



昭和54年 学生会 自治活動のひとこま

会長のことば

御挨拶

会長 中川 長三

会員の皆様さまが、いよいよお健やかで生き甲斐を高めるご活躍に御精進のこと何よりとお慶び申し上げます。さて昭和五十八年三月二十四日、大津市のぞみ荘での第三回総会で、はからずも浅学菲才の不省が、会長にご推挙を辱ういたしました光栄に感謝感激しつつ、鋭意本会の進暢に精励してまいり、ここに会報第三号を発刊する運びとなりました。偏えに会員諸兄姉・役員各位のご協力のもと、学校長はじめ御指導戴いた諸先生の一方ならぬ御懇配の賜と深く御礼申し上げます。

ご承知のように、滋賀県老人大学校は、高齢者への学習の機会の提供と生き甲斐ある価値高い老後生活の確保を目的として開設されました。じらい五星霜をけみし、業を卒えた同窓三七八名、相携えて本会がめざす会員の親睦を深めつつ、互いに研修にいそしみ、母校の発展に寄与することに努力し、よき校風づくりを念じて今日に及んでおります。幸いに地域社会に於ける指導者としての活動も高く評価されつつありますことは、寔にご同慶の至りであります。われわれはさらに団結をかたくし、想をめぐらして活躍をつづけることが肝要で、所期の目的達成を祈って次の提案のご検討をお願い申し上げます。

提案

- 一、各学科別部会組織の確立
 - 二、老人大一般教養講座と関連する講演会
 - 三、校歌の制定・会員バッチの作成
 - 四、慶弔規定の制定
 - 五、"独立校舎"と四年課程への発展
- 最後になりましたが、会員各位の長寿を念じ、母校ならびに本会の弥栄を祈ります。

退任ごあいさつ

前会長 大橋 儀平

第三号会報発刊に際し、初代同窓会長を辞するにあたり一言御挨拶申しあげます。かえり見るに会長として二カ年大過なく務められたのも、皆様のご指導ご協力のおかげと心から御礼申しあげます。このたび新会長に中川長三氏をお迎えし、経験豊かな方ですから益々本会を発展運営していただくこと確信いたします。会員諸氏のご協力お願いします。

老婆心浮かんだまま、お互いに定年も過ぎ社会的にも第一線を退き、余生に張りを楽しみを求め、新たに老大に入学し人生に磨きをかけおえ、続いて後援会会員となり、若者からも愛され、健康に地域活動される誠に幸福満ち足りました老人ですが、今日この喜びの中で再思三省して、人生終着彼岸行の舟に安らかに違いなく乗り渡りましょうね。また会う日を楽しみにしております。心して暮らしましょう。

合掌

日一日と

老の身の

めいどへのたび

人手かりて

気にもせず

あせをふく

ゆかたきて

うちのよめ

うちわかた手に

だまっけても

夕涼すみ

ふそくなし

会員の勸奨

会員の情勢

一期生

意義ある日々

長浜市 高木 三雄

老大を卒業して、早くも三年余を経た私共、折角の得た園芸その他の知恵を、日常のことに精いっぱい生かしていきたいと努めています。テレビの園芸講座など、見落さないよう注意し、老大のテスキトにメモして、参考にしています。

意外に簡単なのは、無果実のさし木で、使用した十本共、凡てが根づき、今年は定植の手はずで、雪どけを待ちわびています。

狭い庭に欲深く植樹をし、家族にも楽しみを持たすよう心がけていますが、今年も八重桜（二年もの）、姫コブシ（三年もの）を手に入れ、これも近く定植の予定です。

無関心に近かったこれらのことが、二年の老大入學により、所作のない老人の日々が「生きがい」と名づけてもよい意義ある毎日を過せることは有難いと思

ます。

自分達の老人会合で、園芸の質問をされると、些か得意面ができるのも、皆おかげと感じます。

全県に亘る同窓生諸兄との疎遠になることは、致し方ないとして、こうして同窓会報の取まとめ発行、或いはその会合のお世話下さる方々に感謝して今回の責を終らせて頂きます。

陶芸一期生の近況

志賀町 田中 誠 三

昨年十一月九日甲賀の塩野温泉で、恩師大西先生と古谷先生（卒業後碧水荘で引き続き指導を受けている先生）お二人にお出で頂いて第九回目の同級会を開催。出席者は加藤・田中・辻井・藤田・平田・辻井・大橋・小松・石川・池田・今井・垣貫・谷口の十三名（生年月順）であり、久し振りで温泉に浸り、懐旧談に花を咲かせ、最後に先生方から頂いた御作品と会員（現在も碧水荘で作陶している者）名前の右側に。印のしてある面々）の持寄った逸品を抽選で頂戴して別れました。

当日欠席された清水義一氏は入院中でしたが、一週間後に他界された事が御遺族からのお便りで判明、音居・村上両氏に続いて三人目の物故者が出て大変淋しい思いです。西村氏は旅行で欠席されたが、元気で農作業に精を出して晩酌がとて甘いか。藤居氏はお達者で寺眷の傍公私多忙との事、それでも句会にも出られ、御無沙汰勝ちの碧水荘へも四月から出たいと希望して居られます。中村氏もお元気で毎日を楽しく、一日を大切に、人に喜ばれる老人になることを念願して暮しているとの事。池田氏は身体障害其他の病気で安静を要するので、専ら写経と信仰の生活を続けて居られる模様。垣貫さんはゲートボールの選手として島の全国大会にも出場、張切って居られます。藤田氏は病氣勝ちだが、読書と法話を聴くことを楽しみに、又宗匠としてお茶は続けているとの事です。陶芸の魅力にとりつかれた面々は毎月碧水荘へ通い、或は家でロクロを廻して土いじりに老の至るのも忘れて楽しんでいきます。同窓の諸兄妹の御健康を祈り擲筆。

一期生活科学科

栗東町 園田満寿

会員皆様の近況をお知らせいたします。

上達せぬゲートボールに笑と汗を、陶芸教室では若い人に交り、土と悪戦苦斗を重ねつつ迷作の昨今に自己満足にひたって、健康である日々感謝しています。

彦根市 北川三枝子

町の福寿大学に入学、町の歴史、ゲートボール、手芸、小旅行等健康保持のため頑張っています。

山東町 中森しずの

毎日を感謝の思いで過させていただいております。健康ってなんとすばらしいものであると存じます。

秦荘町 北村ちよ

在学中よりの手芸で、近江八幡老人クラブの方々と年一回文化祭に出展して楽しんでいきます。

近江八幡市 喜多川りう

最近では体調をくずし、神田さんが神奈川に転居されるお別れ会の時より、皆様方とはお会い出来ず残念に思っております。

近江八幡市 犬井 春子

最近一念発起、皆様方のお役に立つためと、ボランティアの仲間入りをして、老人ホームの寝たきり老人のおむつ作り、雑巾の寄贈等毎日を有意義に過すよう一生懸命にはげんでいます。

近江八幡市 山本 秋子

円光寺吟行の句

なにもかも 集い嘆いて

寝釈迦かな

寝釈迦図や 鬼も涙の

目尻かな

高島町 白崎 喜久

一昨年県老人会主催の、オランダで十年に一回開かれる各国花の展覧会に参加。オランダ、スイス、フランス等を回覧見学して参りました。

長浜市 西堀 三鶴

水口碧水荘の陶芸教室に参加している方々は次のとおりで、それぞれに傑作、迷作等々色々な作品が出来ます。

参加者は、松吉・井田・広田・松井・山本・三浦・

加藤・津山・菅原・園田の諸氏ですが、最近やめられる方があるやに聞いています。

広田宗匠の茶道教室には、大津在往の同期生が参加し、教室とおしゃべりを兼ねて楽しい時間を過します。

河合さんは、最近健康不調で堅田の病院で療養中とおおききいたしました。

悲しいお知らせを一つ

伊藤さんが昨年五月亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。

皆様のご健康をお祈りいたします。

福祉学科

心のひろば

精一ぱい自分の歩いてきた人生の道、これからも続く道を達者で心あかるく歩きたいと思えます。皆さまのお便りの集りです。

(丸市記)

私の部落の老人クラブもゲートボールが盛んで、私も大いに熱をあげ頑張っております。お蔭さまで民生委員も三期目となり、地域の福祉活動に専念しています。

栗東町 仁科政夫

昨年十一月に少々健康を害しましたが、今では回復して元気に、地場産業の有線天鵞絨の製織に精を出すと共に、地域の織物業界の巡回指導員として頑張っています。

長浜市 勝木嗣治

昨今ボケが一寸した社会問題となっている。私は老大大で学んだ早川一光先生のお話を、地域の老クや卒業生の集いの席などで伝講している。私もボケにならぬ簡単な方法を励行している。電話を使わず手紙を書く、車を使わずてくてく歩く、脳細胞をつかって川柳をひねりだす。

税務署は

ほんになじめぬお役所で

彦根市 児島さと

冬將軍も漸く衰えを見せはじめ、時にはやわらいだ陽の光りに、お目にかかれるようになり、縫いぐるみ

にも似た格好の体から、一枚づつ脱げるようになりました。

それでも家の周囲は、残雪におおわれ何時溶けるのかと溜息をもらした毎日でしたが、雪の下から新芽の春のきざしです。

朽木村 小川孝雄

民生（児童）委員、社協、同和推進協議会、各副会長、南郷学区老ク連会長、縁友会老人クラブ会長、自治会委員等十種の役を引きうけて、元気にいささかなりと福祉等地域のため頑張っています。

大津市 吉川豊

私は、その後医師の治療を受けるほかは家に籠り、脚の不自由と今までの病気の後遺症と闘いながら、健康の保持に努め生かされていることへの感謝の毎日を通しております。

甲南町 西村義夫

冬ごもりのつれづれに、般若心経を読み書きしてみましたが、「空」の心は一向に判らぬままにケイチツを迎えました。畑の虫と共に、野球の虫も急にうごき初めて老骨をくすぐる昨今です。生涯、野球宗に奉じて

終りそうです。 近江八幡市 井 狩 忠 之

本格的な高齢化社会を前に、まず健康であることが必要に思います。私達高齢者は社会参加への意欲もち、大切な時間を有意義に無駄に過ごさないようにしたい。仕事を通じて生きがいをも。

|| 大津市 吉 田 貞 雄

私はお蔭様で至極元気にしております。相変わらず町工場の事務員として務めております。又趣味を生かしてのボランティア活動に、あちこちと引出され頑張っております。 愛東町 中 西 清三郎

三月上旬に五重相伝法要がとまり、私もお寺の世話役として法要の行事のお手伝いを致しました。時々本堂へ仕えてありがたい仏様のお話を聴いて、現在生かされている事の有難さをしみじみと感じている毎日です。 野洲町 橋 本 郡 次

私はOB最高齢の九十三才、此一日一日の身命を大切に減罪の少欲知足、不二仏と衆生此儀を旨として日

暮しを清浄にして天命を待つ心境です。皆さんもいつまでも若くはない細やかな善根も忽せせずに只今を喜び日々を送って下さい。 甲良町 大 橋 儀 平

本年一月一日より生活を午前四時半起床、入浴、午後九時就寝を実行している。私に与えられた道がある、ふりむきもできず、希望をもって歩みつづける。

|| 石部町 丸 市 喜 好



二期生

園芸二期生の近況について

石部町 青木 正三

同窓会報の発行について、何か同期生の近況を知らせてほしいとの事で御座いますが、私等二期生の卒業式は昭和五十六年九月に近江八幡市で行われました。当日謝恩会がありました、席上園芸科の者ばかりでOB会をつくり年に一、二回廻りで各町で適当な場所をつくり、恩師嶋岡先生を招き二ヶ年習った園芸のことを復習して、共通の思い出と友情を素直に感謝して、老後の楽しみに親睦を計り、交流を交すことにしようではないかと意見が一致したのであります。

第一回の会合の場所は石部町で開催することになりました。

十一月の初めちやうど菊花満開のとき、花壇も中庭に出来ましたので小生宅で開催することにしました。早速恩師嶋岡先生やOBの方に案内状を出しました。大多数御出席下さいまして、先生のその後の草木の植替え、肥料管理等講義を聞き又質問をし復習いたしま

した。二回目は彦根市、高島、近江八幡ともう三年目です。この四月頃は甲南町での開催です。案内状を今日か明日かと待っております。OBの方々の元気なお顔を拝顔するを楽しんでおります。



近況を思うがままに

守山市 矢谷 留吉

気象観測上稀な厳寒にもかかわらず、風邪もひかず元気で春を迎える事が出来ました。光陰矢の如くとやら老を卒業してから二ヶ年半の歳月が流れ、在学中の楽しい思い出が走馬灯の如く脳裏に展開いたします。楽しい卒業旅行、赤穂御崎で学友と枕を共にした一夜は唯々楽しい思い出として何時迄も心の底に残る事で

しよう。

卒業してからは、在学中色々と学んだ事を生かし、近所の会社に事務員としてパートで勤めて居り、この年になって職がもてると言う有難さをつくづくかみしめて、一日一日を大切に暮しております。そして年に一度、妻と一緒に十日程旅行するのを楽しみにしております。去る三月の初旬会社の旅行で沖繩へ行きました。観光はタクシーで、運転手さんより戦跡をくわしく説明聞く度に目頭の熱くなるのをおぼえました。仕事の都合で僅か一泊二日ではありましたが、今までに一番楽しい旅行でした。達者であればこそこうした旅行も出来ると思えば、益々健康に留意して一日も長いきをしなければと自分に言い聞かせております。年をとるに従い昔の友が懐しく、是非共来る五月十六日の同窓会には出席して、楽しい一時を過すのを今から楽しみに待っております。

(陶芸科)

コミ、ニテイと生甲斐

大津市 菴原忠男

今日迄、職業が座業の手描友仙の為、五十有余年の間、肉体労働をいたしたことはない小生に取って、社会参加と言っても間に合う物とて、何一ツない無価値な人間なのである。

何を考えていたのか、自ら疑問に思う位である。

公害監視委六年目を迎え、シルバー人材センターに在籍して四年になる。外に三ー四の丁稚役も、役立っているのか知らないが承っている。

公園の便所清掃等は、嫁に笑れながら、一ケ年過ぎた。早いものである。

しかしながら、役立つこともないだろうが、自己の健康には大いに役立つている。又社会勉強にもなり、人との対話の機会も多く、交友もあり、誠に有難い、無限の財を得ている。

シルバーの 定講習も受け、今日迄植木のこと等、全く知らなかったが、形態は違っても、理論的には、友仙を描く、技術条件と、差異のない点も含まれ興味深く感じて愉快であった。

科学文明の発達した現在社会に於いて、社会性の認識と、組織の向上の為に、コミュニティ活動に参加して、生甲斐の妙味を得たいと考えている。

而乍ら、それなりに、勇気の必要を充分に痛感しないではいられないと回想しています。

二期文芸の特色

童王町 川部 伊三郎

「入学一年にして好雲会を結成」

大学へ入学して登校の回を重ねるにつれ、急速に学友間の親睦の度が高まってきたので、二年生になった早々に好雲会に因んだ名前である。

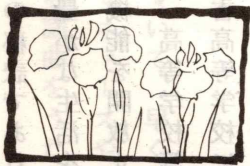
卒業後は県内各地で学友相集いお互の生きがい喜び、長生きを励ましあっている。私たちの平均年齢は既に七十四才を超えているが、お蔭で全員が息災に過し、然もその大半が老人クラブで活躍しているということに喜びにたえない。

最近の消息を略記してみると、中川長三氏、県老連理事、潮北老連会長を歴任し現在老大同窓会長。松井修一郎、近藤辰次郎、寺村彦兵衛の各氏は連合会長と

して県老連会長より受賞された。竹中久作、元持孫太郎、山本喜一郎、中村平三郎、岸田七次、北村郁子、嶋沢保太郎の諸氏は連合会役員、単ク会長その他地域老人クラブの中心的存在であり、筆者川部は連合会の活動推進員として頑張っている。

河端正夫氏は郷土史家として活躍、木野正三郎氏は社会教育の場で数多の役職を兼ね、吉川トミエ、竹中久作、北村郁子の各氏は老大到引続き短歌に精進せられ新聞紙上でおなじみの顔ぶれ、寺村氏は俳画で多くの子弟をもたれている。岡田定平、中島重治の両氏は悠々自適、老人クラブの行事に生がいある日々を送られている。

今後老卒業生が推進員として活躍されることを切望します。



三期生

園芸三期会の活動

長浜市 保多 徳太郎

園芸科三期生は昭和五十七年九月に卒業証書を手
学窓を巣立ちした二十名である。

若々しくこれからも「生がい」のある若人(?)で
あり、二年間学んだ学習を活用するため園芸三期会を
設立し活発な活動を続けている。

一、57年12月8日野洲町橋梅桜にて十六名出席 規
約の制定役員の選出等 総会設立

一、58年4月15日長浜市北ビワコホテルに十六名出
席 長浜曳山祭 長浜城見学

一、58年11月15日永源寺町霜降館に十四名出席 モ
ミジの観賞

一、59年1月20日大津市ビワコホテルに十四名出席
新年会の開催

会合にはいつも健康、幸福に恵れた同窓生が集り、楽
しく一日を過し恩師辻、国松先生の出席を得て、これ
からも学校の延長として続けたい。

選んだ園芸は趣味だけではなく長寿の秘訣であり、
めまぐるしく変動する時代を、明るく豊かな生活をし
ていくため、必要な学習の機会と教育機能を開放する
主旨で開設された県教育委員会の大学、高等学校等開
放講座に、同窓生中沢、村田両氏と伊香高等学校に八
月より「盆栽類を主とした家庭園芸」の学習を八回受
け、修了証書を受領した。これからも「だれでも楽し
く、きらくに学べる」場を卒業生に与えて頂くことを
熱望する。

陶芸科第三期生のこと

五個荘町 佐生 正二

雪又雪ほんとうに寒い永い永い冬でしたが、ようや
く春めいて来ました。卒業以来三ヶ年の歳月が流れま
した。それぞれに教わった教科や教養にご勉強の事と
存じます。私達の同期生には、三人窯をもって趣味に
生きがいを送っていられます。

初窯以来、三十数回素焼本焼を消化、西武デパート
にも出品していられるS友、じっくりと研究して、彦
根市展特選二回のH氏、お知り合いや親籍等より注文

殺到のY氏等といったところです。小生は、五ヶ荘町の老人生きがいと創造事業に参加して丁度三ヶ年、昨年近江商人の人形を考案製作しましたところ、思わぬ好評を得て、老人グループ三十名が週一回の作業日が待ち遠しいと意欲満々、注文に追われ、生産が間に合わぬと嬉しい悲鳴をあげています。

卒業式の後、年一回位会合して友情を温めようではないかと、誰言うとなくきまり、地区別四班を編成、第一回は守山、二回彦根、三回水口（四月五日）、各自自慢の作品を持ち寄り、その後の消息近況を語り合い、カラオケまで賑やかな一ときを過す。又三ヶ月に一回、会員よりの便りを（ハガキに限定）まとめ、ガリ版刷り会報を会員に郵送し、会員の消息と友情連絡をしています。

お互いに元気で健康のつづく限り、こんなやり方で友情を温めています。恩師を始め他科会員のご健康を祈念しつつ近況おしらせまで。

私の近況

大津市 和田正子

さよなら三角、又来て四角を大声で楽しく歌いながら、友達と幼稚園から帰って来ると、いつも白い顔をして寝ていた母、其の枕元で今日習ったお遊戯をして見せる。病弱だった母、何の行事にも不参加の親だった。子供心に寂しい毎日、こうして六年間、其の母が、先祖以来の長寿、満九十才になり健在である。とは云うものの、いつ早川先生の恍惚の人になるかも知れぬ。最後の親孝行のため、母中心の生活をしている。耳も目も確かで裁縫、水引細工、紐結びと共に楽しむ毎日である。

過去の良き時代の思い出に生きて繰返し繰返しの話ばかり、其の昔、老人心理学を勉強したことを思出す。私も、あまり外出しないため話題が少いことから、今回、市の熟年大学を卒業した。

二十五年も年長の母と、一緒に暮らしていて、早く老化しそうで抵抗している。今はテレビでニュースや写真をみて、結構母も政治を論じたり、歌謡曲をうたい、楽しく暮らしている。

これが私の近況です。

どちら様へも、不義理ばかり申しわけありません。
お元気で過ごして下さい。
(生活科学科)

アジア老人学友協会について

大津市 桑野大

昭和五十九年三月二十八日に京都の商工会議所で表記の老人学友協会の日本々部設立が行われました。私は滋賀県老人大学同窓会の友人に誘われて入会しこの式典に出席しました。

この協会設立の趣意は、今や世界各国とも老人々口が増加し、その対策が講ぜられています。各個人又は各国が別々の立場で活動をしていまして、しかも上部からの福祉施策に頼っているだけで受動的な働きに傾いています。これからは、互に交流を計り積極的に老人パワーを結集して、社会に貢献していく道を拓き、やがて国際親善に役立っていかうというのです。まことに有意義で大切な計画だと感じました。しかしこの趣意を達成するには大変な困難をとまなうことを痛感しました。言葉が通じないこと、互いに訪問す

ることは、誰にでも出来ることではない。そうした隘路を踏み越えていかねばならぬのがこの協会の役目だと思えます。私だけの立場を考えても、殆んど協力する力はないと思いますが、たとえ会費の分担だけでも或は又数少ない会合への出席だけでも、それが世界平和につくす一端であると思えば、それだけで充分入会の価値はあると思えます。進んで自分の微力を尽すと共に一人でも多くの会員の参加を祈ってやみません。

(文芸科)

四 期 生

五八園友会の近 について

大津市 田 中 藤 平

本年は例年にない降雪続きでしたが、ようやく心に春風が吹き込んで参りました。皆様御健勝にて御活躍の事御喜び申し上げます。

卒業に際し、園芸科の相互親睦と交流を深め実のある豊かな人生を送るのが目的で（五八園友会）組織し、会長に畑中氏大津・高島・甲賀・八幡・湖東・彦根・の六地区に幹事を置き発足しました。三月五日畑中会長よりお招きがあり幹事三名が集合。

当局より会員の近況を会報にのせる依頼があったとの事で、この度は大津地区が受け持つ様にとの幹事一同の要望により、やむなく一同の意見を纏めて私の責を果たしたいと思えます。

(一) 11/4 副会長前出氏が病氣入院のため、会長幹事有志四名で御見舞に参上、帰路畑中さんの案内で竜王町文化祭を見学(二) 11/25 風光明媚な長命寺湖水亭で「八幡地区」前出、安田、幹事の御尽力で、第一回幹事

会を開催。次期研修会開催等について話し合い希望と歓喜のうちに散会(三) 12/11 南藤園に於て、嶋岡先生の第一回研修会（冬物盆栽の手入れについて）を受講、出席者十五名。「甲賀地区」木村幹事のお世話で、先生を囲んで懇親会を開き和気あいあいの内、時のたつのも忘れ盛会裡に終了(四) 3/21 「湖東地区」塚本幹事のお世話で、老犬講師辻與左衛門先生のお宅で「小品盆栽の作り方」を受講後、五個荘町歴史民俗資料館を見学、近江商人とその偉大さを知ることができ、塚本氏のご苦勞に感謝しつつ出席人員十六名が帰路につく。今後の予定は楠藤園で、近江藤の会の研修会と本年度の会計年度は終了の予定ですが、総会の場所・日時が決定次第改めてご連絡いたしますので、会員各位の多数ご出席を賜わり、今後共老人大学卒業生として自覚をもって、益々お元気で幸せな人生を歩まれることを祈願いたして、次回の再会を楽しみにお待ちしております。

陶芸四期生の昨今

近江八幡市 小西 一郎

老大二ヶ年机を共にした陶芸四期十五名は、深い御研究と慈愛に満ちた諸先生のお導きで、新しい油を注がれたようにパッと活力を喚び起し楽しい温もりが蘇った。

卒業間近かの九月末、一同は伊勢賢島に走ってお別れパーティーとしゃれ込んだ。歌が出る・踊りが始まる・詩吟をやる等々、興一〇名の猛爆である。

後で此のぬくもりを時折りよび起そうと衆議一決、其の第一回を十一月八日湖東三山と決め、史跡探訪、紅葉の観賞によって友情を重ねた。終りに年一回では惜しい二回とし、一回は一泊旅行と決した。そこで当番が、八幡班となり陽春四月、所は八幡城跡に建つ村雲御所を訪れ、続いて八幡の水郷に舟を浮べて清遊を試み、夜は沖島に民泊旧友の好みを温めたいと企画練り、四月二十七・八日決行とした。時恰も、

学友川端正三郎氏昇夫の訃報に接す。川端さんはいつもユーモアに富み、話し振りや動作も穏やかで、氏が一枚加わる事で教室はいつも春風駘蕩であったが、

惜しいかなもう氏の温顔に接する事が出来ない只々氏の冥福を祈るのみ。

四つ葉会の歩み

大津市 知識 シゲ

今年の冬は殊の外厳しい日々でしたが、ようやく春が巡り来て心なごむ今日この頃です。

先般老大当局より、会員の近況を会報にのせるため、原稿をとのご依頼があり、拙文乍ら四期生生活科の歩みを綴ることにしました。生活科は四つ葉会なるものを組織し、それぞれの地区を四つに分けて、三月ごとに当番の班が行事を受持つことにしました。

昨年四月十二日一班の大津地区がお花見を催しました。会場は石山寺。桜も私達を歓迎したのでしよう。それはそれは絵に画いた様な美しさでした。洗心寮にて昼食をとりながら、それぞれの人生の歩んだ道を語り合い、素敵なクラスメイトに出会えた自分の幸せを心から感謝いたしました。参加者十二名。

七月十一日近江八幡地区の主催で八幡山村雲御所並びに水郷めぐりを企画していただき、静かな湖面を櫓

のきしむ音も快よく、よしきりの鳴き声を聞き乍ら舟
弁当に舌鼓をうち心ゆくまで楽しみ、帰路西川様宅で
一休みさせて戴き、開散しました。参加者十三名。

十一月二十三日野洲草津班が「柚子の里」行を企画、
山陰線保津峡の流れを下に眺め、宿近く柚子の大木が
山一面黄金の実をたわわにつけた壮大な景色に、只う
通りの心境。新築のきれいなお部屋に落ち着き、岩
風呂に入る方もあり、温い鍋料理を楽しみ一時を過し
ました。参加者十三名。

今年一月十二日彦根地区の企画は、「レストラン・
彦根城」にて新年会を開催。雪も降らず、思えば幸甚
な日でございました。日が少しずれば彦根地方は大雪
になり開催不能になるところでした。会合を重ねる度
に深まる格別な友情を心にしみじみかみしめて一日を
楽しくすごし、又の再会を希ってお別れ致しました。
友情の輪を作っていたいただいた老大に心から感謝いたし
ます。こまかく書いていただいた歩みをご披露いたし
たいのですが、紙面に限りがありますので、この辺で
拙文の筆をおくことにします。

近江十三会に付いて

新旭町 森 三 郎

大きな雪害を受けたが、文芸四期生は健康で十二月
初会合に続き、新年会はクラス十三名全員の拍手によ
り近江十三会の名称として盛会裡に発足した。

あく迄健康で深い友情をたしかめ合い、地域発展の
範たるを目的としているのである。卒業後は地域リー
ダーだけでなく、アジア老人学友会常務理事として、
アジア全域の老人を対象として活躍する大津在住のク
ラスの一人、また県下全域の歴史を研究し、偉大な歴
史上の人物や神社仏閣の紹介など、女性八名によるエ
ッセイグループとして、女性特有の緻密さと粘り強さ
で第一回を発刊、第二第三の発刊を計画している彦根
在住のグループの一人もクラスの一人だ。また老大の
書道実習は二ヶ年であったが、書道の深いものを感じ
此の四月より、三原博先生指導による滋賀会館書道教
室に入学を許可され、喜びひと老人としての誇りを持
って勉強する者男女四名共にクラスメイトである。頑
張っている。

今老期の身とて、毎日の暮しの中で実行出来る事と

【會員名簿】 ◎学科委員

第一期 生 昭和五十五年九月卒

園芸学科

甲・甲西町針 ◎熊谷清一郎

八・上平木町一五二二 周防安次

彦・竹鼻町 米谷藤太郎

東京・武蔵村山市 山本長夫

彦・千尋町 浅野実誠

甲・水口町城内二一七 岡うた

神・能登川町栗見出在家二一九 井口新作

東・びわ町南浜 中川長三

近八・北津田町一〇六六 前出馬吉

近八・中小森七九〇 山本由二郎

草・山寺町六八〇 宮地太一

長・分木町一八一 高木三雄

伊・木之本町木之本 下川正之進

大・西の庄一五七七一三〇三 加藤義二郎

大・際川二丁目四一二九 下司清
野・野洲町野洲三〇九一六六 永井新一
死 亡

桐畑留次郎・西堀大次郎・西村季吉

陶芸学科

犬・豊郷町八町九六五 西村浅次

伊・西浅井町八田部三一三 清水義一

神・永源寺町高野七六二 糟井五一

八・金屋二丁目一四 加藤悟

蒲・蒲生町蒲生堂五八一 池田七郎

伊・高月町字唐川 藤田弥治郎

守・守山町六四九一 今井満

甲・水口町梅ヶ丘一〇二七 石川まつ江

近八・出町二丁目七四一 谷口光子

近八・西生来町一一二三 中村亀市

草・西大路町一三一八六 垣貫貞

大・逢坂二丁目三一八 平田幸

坂・米原町米原二三三〇

坂・米原町筑摩

滋・志賀町南船路五七

甲・甲西町菩提寺雨山三二九一二四

大・野郷原二丁目三二二一二

蒲・竜王町山之上三三三二〇

死 亡

村上忠雄・音居栄次郎

生 活 科 学 科

愛・秦荘町蚊野一六八一

高・高島町上永田九〇〇

蒲・蒲生町川合八八七

彦・安清町七一九

守・金森町城の下一四〇一一一八

蒲・安土町下豊浦五〇一四

近八・東川町二〇三

近八・魚屋町上四

草・大路一丁目一八一二四

大・大谷町二三一二二

大橋 光

藤居 趣門

◎ 田中 誠三

辻井 美代

小松 正

山上 久一

長・加田東町二五〇四

大・横木一丁目一四一三

大・中央一丁目七一七

北村 ちよ

白崎 喜久

松吉 敏江

北川 三枝子

伊藤 満さを

井田 きぬ

山本 秋子

喜多川 りう

三浦 郁

廣田 きみ

大・横木一丁目二一六

近八・永原町上一〇

栗・栗東町出庭三二七一一

大・山科区日の岡鴨土町三九一一

大・鳥居川町一〇二三

長・加田東町二五〇四

大・横木一丁目一四一三

大・中央一丁目七一七

死 亡

神田隆子

福 祉 学 科

犬・甲良町長寺

高・新旭町熊野本一一八七一一二

愛・湖東町北菩提寺六九一一

甲・石部町石部四六七三

野・野洲町高木

甲・甲南町新治

愛・愛東町平尾五六一一

高・安曇川町常盤木一二四〇

菅原とみ

犬井 春子

◎ 園田 満寿

津山 ツネ

河合 静枝

西堀 三鶴

松井 浪子

加藤 幾尾

大橋 儀平

小川 孝雄

井関 庄三郎

丸市 喜好

◎ 橋本 郡次

西村 義夫

中西 清三郎

駒井 喜代次

野・中主町野田

河瀬義夫

近八・近江八幡市西元町四七

◎中嶋實

近八・加茂町一八九〇

中村弥平

野・野洲町三上四〇六一

内堀善二

近八・江頭町八二七

井狩忠之

甲・甲南町池田九〇一

谷俊治

長・一宮町二一二五

勝木嗣治

滋・志賀町木戸七五

三浦広道

栗・栗東町十里三二四一

仁科政夫

愛・湖東町僧坊

沢田重雄

大・尾花川一八一二

吉田貞雄

野・中主町八夫

高田七百寿

大・南郷二丁目三五一一三

吉川豊

神・能登川町乙女浜

森野真一

坂・米原町米原五七四

増田正夫

伊・西浅井町大浦

藤井長生

東・虎姫町大寺

三家久七

栗・栗東町靈仙寺一五三一三八

松本恵三

彦・芹橋二丁目九一二三

児島こと

彦・彦根市清崎西町

田中勇蔵

草・上笠町九九六

渡辺進

坂・米原町朝妻筑摩

北村勘七

田中由巳

小淵大三

甲・石部町石部四六一六

青木正三

第二期 生

昭和五十六年九月卒

長・長浜市本庄町二五六

清水正一

園芸学科

奥岨靖一

大・大津市松本二丁目三一三三

田中源五郎

甲・甲南町下馬杉五三七

井口章夫

甲・甲南町藤木中野四二

堀井勇一

高・高島町高島

田谷繁松

蒲・蒲生町蒲生堂

安井証三

近八・近江八幡市島町六三二

石島愛知

草・東矢倉一丁目一五一六

堀井勇一

大・大津市別保三丁目六一二〇

石島愛知

草・東矢倉一丁目一五一六

堀井勇一

野・野洲町野洲一一九

永田義一

近八・魚屋町元

三長きみ江

伊・余呉町小谷

田中覚治

甲・甲西町菩提寺三二九一六二

清水イチ

近八・西宿町七〇

木川文雄

近八・小幡町中一七

宇野よしゑ

滋・志賀町中浜八〇

今西重一

甲・甲南町葛木一一四三

服部峰子

野・中主町野田

木村義之

大・別保三丁目六一二〇

石島千代子

近八・北末町一四

浜春一

甲・水口町城東五一七

雀部つる

草・西渋川一丁目四一七

◎中村義朗

彦・岡町

川村繁乃

大・真野大野町

小林太三郎

滋・志賀町北浜一五五

杉本ハマ

守・今宿町三〇二一五

矢谷留吉

守・洲本町開発一四一一

石井綾

栗・栗東町手原六九〇

里内ちづ

大・大平二丁目一四一九

千田トシ

甲・水口町虫生野九九六

小嶋小石

栗・栗東町六地藏四六〇一三八

坂東タミエ

大・大平一丁目一三一四三

山中文江子

長・大宮町五一六

西堀シナ江

死 亡

近八・南津田町二六

片岡みゑ

廣川貞喜

高・高島町永田三九四

三矢博子

生活科学科

野・中主町西河原六五三

川橋亨

文芸学科

東・虎姫町月ヶ瀬二二八一

宮崎程彦

坂・近江町新庄

松居脩一郎

大・大石東町四八八一三

◎菘原忠男

彦・栄町一丁目九一三

近藤辰次郎

大・大平一丁目一五一四〇

財前喜世子

東・びわ町曾根一三〇四

中川長三

八・爪生津町一一八九
 犬・豊郷町雨降野二〇四
 近八・浅小井町三八七
 神・能登川町躰光寺
 彦・日夏町寺村二五八二
 彦・新町三七
 大・堅田衣川町八九
 蒲・竜王町林三九五
 近八・加茂町二八七六
 高・安曇川町田中二四四一
 愛・愛東町百濟寺丙二三九
 蒲・安土町常楽寺三二三
 大・石山寺二丁目二〇一六
 大・大平二丁目一二一三六
 大・南郷二丁目三五一一三

嶋 沢 保太郎
 元 持 孫太郎
 中 島 重 治
 河 端 正 夫
 寺 村 彦兵衛
 山 本 喜一郎
 中 村 平三郎
 川 部 伊三郎
 岡 田 定 平
 岸 田 七 次
 山 本 清左エ門
 木 野 正三郎
 ◎ 竹 中 久 作
 北 村 郁 子
 吉 川 トミエ

長・朝日町二四一三三
 神・能登川町乙女浜
 大・田上森町五三四
 八・清水一丁目八一二
 高・安曇川町田中二八六五
 大・大平一丁目二六一三〇
 犬・豊郷町雨降野三二二
 大・長等三丁目二一四一
 滋・志賀町南小松
 甲・甲西町針六二四
 東・湖北町延勝寺一四〇六
 甲・石部町石部三〇六二一二
 野・中主町八夫一四九一
 高・今津町深清水二〇〇二
 蒲・安土町下豊浦五三八五一三七
 東・びわ町香花寺四八八
 彦・甘呂町八六八
 蒲・日野町中山二四二六
 高・マキノ町知内一二七八

保 多 徳太郎
 森 野 重太郎
 北 川 喜太郎
 川 瀬 清治郎
 霜 降 利兵衛
 奥 田 治郎吉
 西 山 弥一郎
 辻 田 増 三
 沢 村 銀一郎
 西 岡 孝 吉
 中 沢 利 明
 谷 口 三 郎
 中 川 保 二
 松 本 良 一
 岡 田 新治郎
 村 田 他目雄
 辻 中 幸 夫
 瀬 川 治 雄
 前 川 俊 夫

第 三 期 生

園 芸 学 科

野・野洲町三宅一八三八

◎ 齊 内 俊 吉

昭和五十七年九月卒

陶芸学科

草・上笠町六三六一六

大・国分二丁目一九一九

甲・甲南町深川市場八三

草・南山田町四二〇一四

甲・水口町城内六一九

甲・甲南町塩野一二八

草・矢倉一丁目六一一五

神・五個荘町平阪二一〇

大・馬場一丁目三一三二

坂・近江町寺倉三〇九

彦・後三条町一二五九五

彦・西今町八五〇一六九

草・野村町四五四一

近八・北末町二

野・野洲町永原九六六

平井寅清

福島悟朗

福井信一

岸本政太郎

木村主税

清水芳雄

飯田正己

佐生正二

中村標雄

音居三郎

川村順茂

堀江昇治郎

嶋鉄男

吉川保三郎

米田己吉

近八・西本郷町四八三

栗・栗東町大橋三四六

彦・千尋町四四

大・神領三丁目七七八

神・能登川町猪子二七三

近八・土田町八三七一二

高・高島町高島六〇六一

彦・安清町一三三八

彦・安清町一三一五

高・今津町深清水二〇〇二

大・京町三丁目三一六

大・国分二丁目一〇一四

草・南笠町五三六一九七

大・国分二丁目一四一五

神・能登川町柴町一

川瀬栄

北野春子

田中花

前田シン

宮田しづ

大橋雪

井口千枝

白水ヤス

重盛花子

松本まさ江

藤野千津

和田正子

松本ツヤコ

森田喜代子

森キミ

生活科学科

長・高田町六一一四

勝木春

文芸学科

草・野村町八三一一九

大・山上町二一三二

伊藤博祐

森野茂吉

大・浜大津三丁目三丁四
 愛・秦莊町月加田九二三
 近八・小船木町五七七
 坂・米原町朝妻筑摩一四八〇
 長・相撲町五三〇
 野・野洲町北桜七一八
 甲・甲南町野田三九六一三
 伊・西浅井町塩津浜八六四
 蒲・竜王町西横関二七七
 長・常喜新町二八一
 近八・赤尾町三八四
 彦・平田町六七一六
 大・長等一丁目三一七
 八・金屋二丁目一一一三
 神・永源寺町高木一九〇
 大・国分二丁目二二二四
 大・大平二丁目二六一五
 草・草津町一七四五一一三
 草・波川一丁目一一一二七

◎桑野 大

北川 弥一郎
 城野 弥三
 古川 武男
 藤居 勝一
 青木 治之丞
 松本 弥一
 平塚 重雄
 大橋 昇治郎
 森 量海
 中島 庄右衛門
 野中 正
 増田 三郎
 坂田 定五郎
 山田 省平
 伊達 初子
 西尾 公子
 加藤 さだ
 中村 千代子

西新町一〇〇一八

大・鶴瀬二丁目三〇一三

近八・船木町二二五六

中・木口町武隈八一二〇

甲・天倉一八一四

島田式

大・日野町一八八七

大・大田二丁目二二一三

近八・泉田町四二四

大・大谷一〇自一二一六

大・高野町新盛町一〇一

大・大森三〇庄

大・大平二丁目二六一五

大・草津町一七四五一一三

大・波川一丁目一一一二七

大橋 美登

林 登

藤田 英之助

島田 實徳

小島 登一

大橋 重雄

田中 登

高橋 登

小島 登

大橋 登

野中 登

増田 登

坂田 登

山田 登

伊達 登

西尾 登

加藤 登

中村 登

第 四 期 生 昭和五十八年九月卒

園 芸 学 科

蒲・竜王町山之上三三七八 ◎ 畑 中 保治郎
 近八・北津田町一〇〇二 前 出 幸一郎
 大・長等二丁目六一一 今 井 千 歳
 愛・湖東町中一色四三六 島 村 三 郎
 蒲・竜王町橋本 浅 原 甚 吉
 大・大石中町二九六 田 中 藤 平
 彦・新町三一 井 上 喜 平
 甲・甲南町新治一二〇七 木 村 順 次
 坂・米原町朝妻筑摩一四四二 北 村 正 男
 蒲・蒲生町川合一五三七 高 倉 嘉兵衛
 神・五個荘町川並七一八 塚 本 源太郎
 高・安雲川町田中二四二七 懸 岸 伊 助
 高・新旭町大字藁園 湯 浅 伝右衛門
 甲・甲南町野尻一〇七三 林 長 夫
 犬・甲良町金屋一二七三 小 松 藤次郎
 甲・石部町東寺一〇六二一 椎 屋 正 夫
 近八・長光寺町一〇六 安 田 泰 三

甲・甲西町菩提寺三二六一七三
 高・今津町北仰六五三一四四
 京・下京区御幸町通り四条下ル
 大森町三八八
 大阪・高槻市塚脇町一丁目
 二五一一五
 大・蛸谷一〇一一二
 近八・玉屋町八

陶 芸 学 科

◎ 青 木 登
 四 畑 義 雄
 上 田 久 子
 永 谷 ふ志の
 川 口 登 美
 泉 本 み ね
 ◎ 小 西 一 郎
 高 野 惣 平
 田 中 元 三
 大 林 重 信
 小 堀 定 一
 島 田 寅治郎
 岡 田 英多良
 林 信 夫
 大野木 義 雄

| | | | |
|---------------|------|---------------|-------|
| 神・能登川町種一七二〇一五 | 長尾政治 | 近八・北元町一八 | 北脇かず江 |
| 八日市・妙法寺町八二五 | 遊佐幸吉 | 鈴木富美 | 死亡 |
| 草・御倉町六九八 | 赤滝和枝 | 鈴木富美 | 死亡 |
| 近八・西庄町一三五五 | 八田富美 | 鈴木富美 | 死亡 |
| 彦・後三条町一二五一五 | 川村和子 | 文艺学科 | |
| | | 近八・武佐町六五五 | 岡田政治郎 |
| | | 伊・西浅井町山門八八七 | 山本仙松 |
| | | 大・浜大津四丁目四一四 | 菅野小平治 |
| | | 大・朝日ヶ丘一丁目一二一三 | 中田太喜蔵 |
| | | 栗・栗東町六地藏三九一 | 大角与三二 |
| | | 大・三井寺町二一四三 | 正岡吉三郎 |
| | | 蒲・日野町杣六八三 | 大道喜一郎 |
| | | 大・梅林一丁目二一六 | 森田多 |
| | | 愛・愛東町梅林二八一 | 阜月藤吉 |
| | | 大・本丸町膳所公園団地 | 岩崎豊成 |
| | | 六号棟一〇五号 | |
| | | 栗・栗東町蜂屋九〇 | 後藤猪三郎 |
| | | 高・新旭町太田一三七六 | 森三郎 |
| | | 彦・賀田山町八四 | 田中きり |
| | | 大・一里山五丁目二六一六 | 神保淳子 |
| 蒲・安土町下豊浦五〇一五七 | 伊藤シズ | | |
| 甲・甲賀町上野一六九四 | 澤せき | | |
| 草・野村町八三一一九 | 伊藤尚子 | | |
| 草・矢橋町二三一三六 | 稲村直子 | | |
| 彦・安清町一二一五 | 若林シズ | | |
| 近八・多賀町六四五 | 西川志津 | | |
| 彦・清崎町八七一 | 村田穂 | | |
| 大・国分二丁目一五一一八 | 知識シゲ | | |
| 大・梅林一丁目四一八 | 森地文 | | |
| 大・京町三丁目三一七 | 小川たづ | | |
| 大・京町三丁目三一八 | 瀬川よし | | |
| 野・野洲町三上一七七六 | 寺井良子 | | |
| 近八・八木町四〇六 | 荒井俊子 | | |

生活科学科

文艺学科

地 区 別 会 員 数

| 地 区 | 市 ・ 郡 | 会 員 数 | | |
|-------------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| | | S 5 9 . 9 現 | S 6 0 . 9 | S 6 1 . 9 |
| 大 津 地 区 | 大 津 市 | 74 | | |
| | 滋 賀 郡 | 5 | | |
| 湖 南 地 区 | 草 津 市 | 26 | | |
| | 守 山 市 | 8 | | |
| | 栗 太 郡 | 12 | | |
| | 野 洲 郡 | 18 | | |
| 甲 賀 地 区 | 甲 賀 郡 | 37 | | |
| 近 江 八 幡 地 区 | 近 江 八 幡 市 | 50 | | |
| 湖 東 地 区 | 八 日 市 市 | 8 | | |
| | 蒲 生 郡 | 18 | | |
| | 神 崎 郡 | 15 | | |
| 愛 知 犬 上 地 区 | 彦 根 市 | 34 | | |
| | 愛 知 郡 | 13 | | |
| | 犬 上 郡 | 7 | | |
| 湖 北 地 区 | 長 浜 市 | 9 | | |
| | 坂 田 郡 | 8 | | |
| | 東 淺 井 郡 | 7 | | |
| | 伊 香 郡 | 9 | | |
| 高 島 地 区 | 高 島 郡 | 22 | | |
| 計 | | 370 | | |

滋賀県老人大学校同窓会々則

第一条 (名 称)

本会は、滋賀県老人大学校同窓会と称する。

第二条 (会 員)

本会は、滋賀県老人大学校卒業生をもって組織する。

第三条 (事務所)

本会の事務所は、滋賀県老人大学校本部内におく。

第四条 (目 的)

本会は、会員の親睦・研修および老老の発展に寄与することを目的とする。

第五条 (事 業)

本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

一、総 会

二、研修会

三、老老後援活動

四、会報の発行 (年一回)

五、その他の事業

第六条 (役員および役員の選出・任期)

本会に次の役員を置く。

会 長 一名

副会長 一名

理 事 一〇名

幹 事 二名 (会員・事務局から各一名)

監 事 二名

役員の選出方法

会長および副会長は、理事会によって選出する。

理事は、各学科から選出する。

幹事は、会長が委嘱する。

監事は、各学科が交替で二名を選出する。

役員の任期

役員の任期は二年とする。

第七条 (経費および会計年度)

本会の経費は、会費をもってこれにあてる。

会費

会費は、会員一人当り年額一〇〇〇円とする。

会計年度

本会の会計年度は、毎年度四月一日から始まって翌年の三月三十一日をもって終わる。

付 則

本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。

(改正) 昭和五十七年十月一日から施行する。

同窓会沿革

| 年・月・日 | 摘要 |
|-----------|--|
| S 55・9・22 | ○滋賀県老人大学校同窓会の設立総会を、草津市社会福祉センターにおいて、第一期卒業式終了後に開催 会則案の審議と承認 役員選出 |
| 12・1 | ○同窓会役員会開催 会則第五条（事業）の具体化について協議 第一回総会日程決定（S 56・3・25） |
| S 56・2・21 | ○理事会開催 総会日程の決定 予算案の審議と作成（別表） 会報形式の決定と執筆要領の決定 |
| 3・25 | ○第一回総会開催（草津） 会報報告 予算案の審議と承認 当日の老大大公開講座に出席し研修する。 |
| S 57・2・1 | ○役員会 |
| 2・19 | ○会計監査 |

| 年・月・日 | 摘要 |
|-----------|---|
| S 57・3・8 | ○第二回総会開催（草津） 会務報告 予算・決算の承認 当日の老大大公開講座に出席し研修 総会後懇親会 於あたか飯店 |
| 12・14 | ○役員会 |
| S 58・3・17 | ○会計監査 役員会 総会日程の確認 会計決算・予算の審議と作成 昭和五十八年度役員選出 |
| 3・24 | ○第三回総会開催（大津） 午前中 発表会・議事 午後 懇親会 |
| 7・21 | ○理事会 S 59年度計画 |
| S 59・2・20 | ○理事会 S 59年度計画 |
| 4・21 | ○理事会 総会の件 |
| 5・16 | ○第四回総会開催（彦根） |

昭和58年度 会計収支決算

取 入

(単位：円)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差引増減額 | 摘 要 |
|-------|---------|---------|----------|------------------------------|
| 会 費 | 201,000 | 180,000 | △ 21,000 | S 58年度分108名 S59年度分前納72名(4期生) |
| 寄 付 金 | - | 30,000 | 30,000 | 広告料 20,000 会長より 10,000 |
| 繰 越 金 | 36,084 | 36,084 | - | |
| 利 息 | 1,916 | 2,431 | 515 | 滋賀銀行 上期1,006 下期1,425 |
| 雑 収 入 | 30,000 | 20,400 | △ 9,600 | 事務局税金 20,000 通信費預り 400 |
| 合 計 | 269,000 | 268,915 | △ 85 | |

支 出

| 区 分 | 決 算 額 | 決 算 額 | 差引増減額 | 摘 要 |
|-----------|---------|---------|----------|-----------------------------|
| 報 償 費 | 10,000 | 20,000 | △ 10,000 | 餞別 10,000 期末礼 10,000 |
| 旅 費 | 3,000 | 2,000 | 1,000 | タクシー代 |
| 需 用 費 | 80,000 | 79,500 | 500 | 通信印刷代・総会費補助・理事会(3回) 総会幹事会弁当 |
| 役 務 費 | 25,000 | 3,320 | 21,680 | はがき・切手・振替紙送料 |
| 会 議 費 | 4,000 | 4,000 | - | 総会補助 |
| 研 修 活 動 費 | 110,000 | 110,000 | 0 | 会報三号 400部 |
| 交 際 費 | 2,000 | - | 2,000 | |
| 賃 借 料 | 5,000 | 2,280 | 2,720 | 理事会会場 2回 |
| 雑 費 | 4,000 | - | 4,000 | |
| 積 立 金 | 10,000 | 10,000 | - | 特別会計へ |
| 予 備 費 | 16,000 | 16,000 | - | 総会補助 |
| 合 計 | 269,000 | 247,100 | 21,900 | |

差引残高 268,915円 - 247,100円 = 21,815円 次年度繰越 21,815円

収支決算書・諸帳簿および証憑書類を対照精査した結果、いずれも正確に処理され適正であることを認めます。

昭和59年5月9日

監事 田 中 源五郎 (印)
菅 原 と み (印)

昭和59年度 会計予算 (案)

取 入

(単位：円)

| 区 分 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 差引増減額 | 摘 要 |
|-------|---------|---------|----------|-----------------------------------|
| 会 費 | 298,000 | 201,000 | 97,000 | 1・2・3期会員1,000×215人 5期生前納1,000×83人 |
| 繰 越 金 | 21,815 | 36,084 | △ 14,269 | |
| 利 息 | 2,185 | 1,916 | 269 | |
| 雑 収 入 | - | 30,000 | △ 30,000 | |
| 合 計 | 322,000 | 269,000 | 53,000 | |

支 出

| 区 分 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 差引増減額 | 摘 要 |
|-----------|---------|---------|----------|--------------|
| 報 費 | 20,000 | 10,000 | 10,000 | 謝 金 2回 |
| 旅 費 | 3,000 | 3,000 | - | |
| 需 用 費 | 70,000 | 80,000 | △ 10,000 | 印刷・消耗・食糧・通信料 |
| 役 務 費 | 5,000 | 25,000 | △ 20,000 | 郵送原材料 |
| 会 議 費 | 2,000 | 4,000 | △ 2,000 | 湯茶原材料 |
| 研 修 活 動 費 | 120,000 | 110,000 | 10,000 | 会報 450部 |
| 交 際 費 | 2,000 | 2,000 | - | |
| 賃 借 費 | 3,000 | 5,000 | △ 2,000 | 会議場借料 3回 |
| 雑 費 | 4,000 | 4,000 | - | |
| 積 立 金 | 10,000 | 10,000 | - | 特別会計 |
| 予 備 費 | 83,000 | 16,000 | 67,000 | |
| 合 計 | 322,000 | 269,000 | 53,000 | |

